

オアシスの森くらぶ

ニュースレター 13号 2001.10.27発行

発行 オアシスの森くらぶ
編集委員会
発行人 永田 修二
編集人 近藤 眞史
編集長 五十川 幸夫

第21回 緑の都市賞「審査委員長奨励賞」を受賞！

この度、財団法人都市緑化基金と読売新聞社主催による第21回「緑の都市賞」の発表があり、森くらぶは「審査委員長奨励賞」を受賞しました。

表彰式は10月16日(火)に東京、千代田区の東条インペリアルパレスにて行なわれました。

当くらぶからは永田会長と真弓副会長の二人が出席しました。

当日は木村尚三郎静岡文花芸術大学学長の記念講演に始まり、表彰式、懇談会と続きました。

永田会長と真弓副会長の二人は賞状を手にして、ニンマリ！ (小池)



秋の気になる実 - 木の实マップづくり -

鈴木ひろ子

秋、四季の中でこの季節が一番好きと言われる方が大勢いらっしゃると思います。

実は、私がそうです。

この文が届けられる頃には、山々が色づいてパッチワーク状になるでしょう。

過日、9月22日土曜日お弁当も持たず午前中だけにして帰宅する予定でした。

ミーティングの後「相生山コミセンにて「秋の樹になる実」の調査したものをマップにしてみてください」とのこと。トホホ...

班分けに入った。私の班に入って下さった情け深い方々、応援ありがとう！

コースをもう一度確認して、つどいの広場から竹藪を通過してクラブハウスへ向かう。坂道を駆け下りる。後ろから「足が早すぎる!!」

先週も岐阜北陸自然歩道を歩いて山を登ったばかり。

はじめはトンボ池の「ウサギ」からだった。空色と群青色した実は濃い赤の星型をしたガクに収まっている。記録係をかって出て下さった奥村さんが次々に出てくる木の実に悲鳴を上げる。右に左に出てくる出てくる...。この森が初めての方もおられたので、一本の木について深~い長~いお話になってしまう。一樹に五話はあるはず、文化、染色、材、食、遊などなど。

それはさておき、私も記録する。方法は、例えば右を見て「右コナラ3」これは後から思い出す場合に場所を印象づけるため役立つ。「左コナラ5・アオハダ3」とか記録する。場所、木の階段終了地点「とか大まかな場所も記録しておく。歩道から奥行き2

m迄くらいとする。

上り坂が続く続く。どの木も実を付けている。緑色だったり、帽子を付けていたり、軸を付けて二つずつ赤い実を落とす木、銀色に光る実、緑色のイガを付けた実、房状に下がる実、上を見ている実...、展望台近くまでだが白紙が樹名で埋め尽くされた。

昼食を終え、つどいの広場を13:00に出て、予約を取って下さった相生山コミセンへ移動する。

その時、頭の中は「どのように3班分の樹名を整理すべきか？」でいっぱいだった。

コミセンの黒板に仕事の手順を荒書きした。

1班が見た樹名を読んでもらう。書記の方が番号を付けていく。

2班は、1班が読み出さなかったものに番号と樹名を追加する。

3班も2班と同様にする。

番号表と樹名を発表し、長谷川さんが黒板に書いた。コース別地図の余白にこれを写し書きする。(どんな場所に掲示されても使用できるようにするため)

各班ごとに仕上げる。絵も入れて色づけする。番号と樹名を地図に落とし込む。樹名はカタカナ。

文具が数少ない中で工夫し、5才のお絵かきさんも参加して、すばらしい手作りのマップが仕上がった。各班ごとに写真に収めた。

連帯感、満足感で皆さん顔に笑みが...。午前中で帰宅する予定だった私にとっても救いとなった。

それと、皆さんで間伐したおかげでキミノズミの実等々が太くて大きくて沢山なったのが、木からのお礼だったのではないのでしょうか。



実物はオアシスの森のなかにある掲示板に貼ってあります。是非、一度ご覧下さい。

抑制型植生管理術

眞弓 浩二

7月の定例活動は17名の会員の参加を得て、久しぶりの柴刈りフィールドワークとなりました。

記録的な酷暑が続くこの夏としては、多少過ごしやすい日ではありましたが、少し作業しただけで全身汗びっしょりになってしまい、やはり夏場の作業は大変だなあ・・・と改めて感じさせられました。

今回の植生管理のテーマは、昨年の雑木林塾で作業をおこなった双子池付近の斜面樹林地をさらに北側に伐り進むもので、ヒサカキ等を主とする常緑樹の抑制を目標にした植生管理作業の体験学習でした。



指導はオアシスの森ではおなじみの雑木林研究会会長で森くらぶ会員でもある、林進さん。

むし暑いこの時期、常緑樹にとっては春に芽吹いた新葉がようやく固まり、

いよいよ本格的に光合成を開始し、根茎や幹に栄養を送り返す時期といえます。つまり蓄えていた養分を新葉の展開に使果たした時期の伐採となるわけで、抑制を目的とする除伐には最適期といえます。下草刈りなどをこの暑い時期に行う理由もこれと同じです。

当日は枯れたアカマツの伐採なども行い、林床に届く日の光も多くなり、来春の林床植生の出現も楽しみです。

作業後は阪野さんが差し入れてくれた西瓜をいただき、のどの渇きをいやすとともに、右手にノコギリ左手に缶ビールの定番ファッションで作業後の達成感と一体感を参加者全員で満喫しました。

「八事の蝶々」ワークショップ

眞弓 浩二

8月の定例活動会は「八事の蝶々の会」の方々3名をお迎えして、天白区の郷土玩具である「八事の蝶々」のお話を伺いながら協働のワークショップを催しました。

「八事の蝶々」は明治から昭和の初期まで行楽地であった八事を訪れた人達に、おみやげとして売られていた郷土玩具で、その材料には生のマダケが使われるということです。伝承者の加藤かなさんをはじめ「八事の蝶々の会」のみなさんは、学校や地域で多くの人たちにこの蝶々づくりを伝えてみえるそうです。

この日の活動場所は、昨年の「萌木

まつり」でマダケの除伐と散策路整備をおこなった、クラブハウス前の新設ルート入口付近で、侵出した竹の除伐と散策路整備をおこないました。

1時間半程度の短い時間でしたが、暑い中参加者の皆さんは、精力的に、作業に汗を流しました。その後、採れたてのマダケを使って「八事の蝶々」の作り方を会の方から教わり、子どもの頃の記憶をよみがえらせるメンバーもいたようです。

かつてはこのような森の手入れによって出る木や竹はいろいろな用途で人々の生活に有効に活用されていました。森と人が密接に関わり合って過

いたそんな時代とは、たとえ物が少なく不便であっても、今日より自然の姿も人の心も豊かであったのだろう・・・と考えさせられました。



見晴らし台の塗装ワークショップ

眞弓 浩二

前日かなりの雨が降り、塗装は無理かとあきらめていたところ、翌朝はからりと晴れ上がり「やりましょう!!」と会長の永田さんから電話がかかってきた。なかなか周知が行き届かず、森くらぶの有志8名の参加ではありましたが、午前10時から、傷みが目立ってきた見晴らし台の塗装に挑戦することになりました。

今回も5月のトンボ池再生活動に続いて、企業：木文化研究所、行政：天白土木事務所、市民：オアシスの森くらぶ、という三者協働によるグラウンドワーク方式による活動となりました。

オアシスの森開設後3年半の歳月が経過し、見晴らし台も塗装が剥げ、木部のひび割れ等が進行していたが、「この時期に塗装を施せば長持ちする・・・」と木文化研究所の水野さんからのアドバイスと塗料提供のお話があり、塗装作業をオアシスの森くらぶが、ハケやバリケード等の手配を天白土木事務所がそれぞれ担当するという調整が付き、

三者の協働が実現しました。

慣れない作業に最初はなかなかうまく捗らなかった作業も、時間の経過とともに皆熟練し、午後2時30分までの活動時間内に塗り上げることができ



ました。これには、参加者の汗と根気が原動力であったことはいうまでもないが、脚立・橋板など作業を熟知した野浪さんの万全の準備と要領のいい段取りのおかげという事を付け加えておきたいと思えます。

作業を終え、新品と見間違えにくい出来映えにみんな大満足の様子。そして、これからは落書きなどされなければよいが・・・と願いながらきれいに若返った見晴らし台をしばし見上げていました。

かつては、どこにでもあった野原や雑木林、湿地や溜め池。都市化が進んだ天白区ではもう昔を偲ぶことも難しくなってきたとよく耳にします。しかし、現在でも森や湿地など、数多くの豊かな自然環境が残されているが、市民に知られていない一面もあります。このような身近な自然環境にもう一度目を向けて、その価値を見直してもらおうという思いから、今回のフォーラムは企画されました。また、このフォーラムは市民と行政のパートナーシップ（協働）によって企画・運営されるという新しいスタイルによるもので注目されます。

実行委員会は天白区内の森や湿地で自然観察会や保全活動に携わるボランティアグループ6団体と、名古屋市緑政土木局、東山総合公園事務局、天白農業センター、天白区まちづくり推進部、天白生涯学習センター、天白土木事務所によって構成された。また林進さん（雑木林研究会会長・岐阜大学教授）をコーディネーターとして迎え、準備に約半年間をかけ、その間4回の実行委員会を重ねてこの日を迎えた。

9月29日（土）の午前中のプログラムは以下の通りであった。（案内チラシ掲載順）

天白公園会場

「竹で作ろう、プレーパークで遊ぼう」

指導・運営：てんぱくプレーパークの会

島田緑地自然生態園会場

「湿地観察会 ～秋を彩る湿地の植物～」

案内役：島田湿地を守る会

平針・荒池緑地会場

「野鳥観察と荒池緑地を歩く」

案内役：平針探鳥会

相生山緑地オアシスの森会場

「竹の生命・その神秘を探る

～相生山の竹林探検フィールドワーク～」

講師：林進（雑木林研究会会長）

案内役：相生山緑地オアシスのくらぶ

天白生涯学習センター・天白公園会場

「自然観察入門

～植物観察の仕方教えます～」

指導・運営：東山自然観察会

天白生涯学習センター会場

「ヤシの葉で作るバッタと自然体験」

指導・運営：相生山緑地自然観察会
これら午前中の部の参加者は、合計で128名であった。

「竹の生命・その神秘を探る」

～相生山の竹林探検フィールドワーク～

森くらぶが担当した催しでは、オアシスの森の中にあるハチク・モソウチク・マダケの竹林を巡りながら、竹の特異な生態や竹の種類や年齢の見分け方、竹の利用法や効能、竹林管理の方法など、多岐にわたる内容を学ぶことができた。講師に林進さんをお迎えしたこともあり48名の参加者がこの会場に集まり、質問が飛び交う盛況な催しとなった。1本竹を伐採し種類や年齢を調べた後短く切り分けたところ「持って帰りたい」と希望される方も多く、竹の利用は現代でもまだまだ可能性があると感じた。

また、最後に近年タケノコの盗掘が著しい相生口付近の竹林で、この夏から始まった竹林育成のための整備の状況を見てもらった。ここでは竹の利用やタケノコの採取など、適切な利用と適切な管理は表裏一体のものであることなど、健全な人と自然の関係の大切さを参加者に考えてもらえるいい機会になったのではないかと思った。

「天白・もりのフォーラム」

午後のプログラムは、午前中各会場での催しを終えた活動グループや参加者が生涯学習センターに一堂に会してフォーラムをおこなった。

最初に行政の立場から緑政土木局の小池さんからのプレゼンテーションがあった。内容は、名古屋市が推進する「パートナーシップによる森づくり」や名古屋の緑がこの10年間に成長し緑のボリューム（樹高）が20～30%増加しているとともに、樹齢の若い樹林地の減少傾向が見られることなど、名古屋の緑の状況について説明があった。

次に、実行委員会を構成したそれぞれの活動グループからフィールドの案内・活動の内容・市民への呼びかけなどが、新兵器パワーポイントを駆使したプレゼンテーションで分かりやすく解説された。

我が森くらぶからは、会長の永田さんと私が出席し、永田さんが3年間のくらぶの活動実績を順を追って説明してくれました。

その後会場からの質問を交えながら、林進さんのコーディネートによって「子どもの頃の遊びの記憶が自然を慈しみ、楽しみ、賢明な利用を考える源となっている」「いかに現在のボランティア活動を続けていくのか」「若い世代の心にどう訴え、巻き込んでいける働きかけができるのか知恵を絞る必要がある」などの議論が繰り広げられた。

午後のフォーラムには、107名が参加し盛況裏に終えることができた。参加者からは「市民と行政と専門家がうまくタイアップして良い」「天白区の自然の豊かさを改めて認識した」「各団体の方々が自然環境のために活動されていることはすばらしい。これからも続けていってほしい」「地域に密着した自然観察にもっと多く参加していきたい」「もっとこのようなフォーラムを開いてほしい」「いろいろな自然活動団体の全容を知ることができて良かった」等の好意的な感想が多数寄せられた。



森の住人たち ～タヌキ～

タヌキ イヌ科
棲息地 雑木林及びその林縁部

餌 雑食
（果実、昆虫、ネズミなど）



この夏、相生山緑地周辺でタヌキにまつわる話が二件あった。

一件めは、新聞報道のあった「タヌキ 横断歩道で交通事故」というものである。幸い軽傷だったという。

二件めは、ある人家にタヌキの親子が住み着いた、というものである。まさか・・・と思ったが、実際にその家を訪ねて納得した。その家主は、毎朝庭のつくばい（手水鉢）に水をはることを日課としていた。また、その家の縁の下は

土だった。今ではコンクリートである。この2点が母タヌキがこの家に住み着いた理由だろう。また、人間が定期的に出す生ごみも雑食性のタヌキにとって魅力的だったと思われる。

タヌキの行動範囲は30ヘクタールである。土地の面積に対して樹木が占める割合が15%ほどの雑木林が必要だといわれる。このほかにも動物たちが生きていくためには、いくつかの条件が必要だ。住みか、水、食べ物、そして空間。

まちに出てくるタヌキがいる - ということは、タヌキの増加によってエリアに限界がきているのだろうか。ハクビシンも相当数いると思われるが、そのハクビシンとの縄張り争いもあるかもしれない。今は何も判断し兼ねる。

タヌキに伝えたい。
「まちに出て横断歩道を渡るときは、人間になって青信号を渡るんだよ」

（文責 近藤記巳子）

全国雑木林会議神戸大会2001に参加して

小池 敦夫

「森、人、語(かかわ)る ~里山の過去、現在、未来~」というテーマで、9月22日(土)から24日まで3日間、神戸しあわせの村で開催された第9回全国雑木林会議に行ってきました。

9月22日のエクスカージョンに始まり、2日目の全体会、そして5つのテーマでの分科会にわかれ、最後は全体会で締め、懇親会、そして朝まで討論会へと続きました。最終日は再度公園でのフィールドワークという日程でした。3日間とも秋空のすばらしい天

気に恵まれました。

名古屋からは森くらぶのメンバーはもちろんのこと、雑木林研究会やてんぱくプレーパークの会のメンバーが出席し(かなり重複している人も多いが)、全国からもおなじみの顔ぶれがそろっていました。

毎度のことではありますが、全国での雑木林市民活動の紹介や資料収集さらには全国メンバーとの交流が一番の楽しみでした。これを楽しみにやって来る人もかなり多いと思います。私は別用があって、後髪を引かれる思いで名

古屋の”飲んだくれ?”のメンバーと別れて、2日目で会場を後にしました。やはり、全国各地を訪れ、いろいろな市民活動に触れ、様々な人々と交流することによって、新たな活動意欲も湧いてきますね。

ちなみに来年の第10回大会はなんと、北海道は帯広市だそうです(やはり9月)。

みなさん、今からせっせとお金を貯めて、ぜひ帯広へ行こう。そして、本州とは違った北海道の里山(温泉)に触れよまい。

まちづくり屋台村 出店

永田 修二

10月6,7日 吹上ホールにおいて、「スーパーハウジングフェア」の一環として「住まい・まちづくり屋台村」が開催されました。これは、住まいやまちづくり、自然環境に関わる市民団体が村人となり、普段の活動の発表・ワークショップを行う村を2日間にわたって起こしたものです。

各方面から多彩な参加があり、歴史・自然・町おこし・ボランティアの支援など、目的も活動内容も千差万別の各グループがゾーン分けされたブースで自分たちの特色をアピールしていました。地方からの参加もあり東京、遠くは岡山・熊本からも来ていました。

我が森くらぶは、「自然」ゾーンの一角で雑木林研究会と仕切りを無くし

た同一ブースで出店し、初日は安藤・真弓・永田、2日目は奥村・石川の各面々が店番に出ました。出品は会員の白石さん作の雑木楽器の展示、竹の楽器でおなじみ「竹ぼら」「2種類の竹笛」の販売?(子どもは無料、大人も3種類とも音が出たら1つ進呈)で結構人気がありました。

初日2日とも好評で(あまり売れなかったけど)、今までとちょっと変わった住宅関係のフェアということが、我々の活動に関しかえって新鮮に見えたのか、くらぶ・相生山に興味を示す人が多くいました。くらぶの活動内容を広くアピールするためにもこのような催し物にはできる限り参加すると良いと思います。



会員募集中!

このクラブは、相生山緑地オアシスの森を活動の場として、昆虫、鳥類を含めた、多様性のある森づくり、環境づくりなどのフィールドワークを行い、会員同士のふれあいや、オアシスの森を通じて地域の人との交流などを行う、楽しい集いです。

具体的な活動内容はオアシスの森を訪れる人々に、自然観察の方法や楽しみ方を知ってもらえるよう案内する。

公園管理者と協力しながら、オアシスの森での植生管理作業を行う。

植物、野鳥や地形、地質、気象などの調査を行う。

柴刈り大会や自然観察会などのイベントを適宜行う。

その他、目的を達成するために必要な事業を行う。

会費は年間1500円(保険料含む)です。主に連絡、郵送費です。

振り込み先(郵便局) オアシスの森くらぶ 00860-7-33725 連絡は事務局までどうぞ

『竹の葉染め』参加者募集!

日時 / 11月23日(金・祝日) 午後2時~4時頃
場所 / 天白生涯学習センター 美術室
定員 / 20名程度 材料費 / 実費(200~300円程度)
応募方法 / TELまたはFAXにて石川まで【832-8086】

定例活動スケジュール
集10時の広場集合

- 11/24(土) 竹の炭焼き ~25(日)
- 12/22(土) 新年の装いと梅の剪定
- 平成14年
- 1/26(土) 竹林の手入れと落ち葉かき
- 2/23(土) 赤松林の再生プロジェクト
- 3/23(土) 第4回 萌え木まつり

先着順ですのでお早めに!!

「竹の葉染め」以外の参加も大歓迎!!



参加申込みやお問合せなど
事務局
伊藤百寿人 052-895-8523
中島己治男 052-803-9534

ニュースレターをメールで配信
申込先
e-mail : iso iso@eva.hi-ho.ne.jp
e-mail : masashi_k@muf.bigbbe.ne.jp

ホームページをご覧ください
e-mail : yoji-toyo@amy.hi-ho.ne.jp
URL address :
http://www.amy.hi-ho.ne.jp/yoji-toyo/mori-club/oac-index.html